

マーシャル諸島へ 島と戦争を見つめるドキュメンタリー映画



父の最期の地(マーシャル諸島)をめぐる74歳の旅と、島の暮らしに棲みついた戦争の記憶



忘れた環礁は、憶えている

第6回山本美香記念国際ジャーナリスト賞 奨励賞受賞作品

大和市出身

映画監督作品

<大川監督からのメッセージ>
マーシャル諸島をはじめて訪れた18歳のとき、日本からマーシャルが見える映画を作りたいと思いました。幼稚園のお遊戯会で踊った大和の会場で、この度上映会を開催いただけること、心からうれしく思います。

当日トークあり



大川史織監督

タリナイ tarinae

大川史織 初監督作品
プロデューサー 藤岡みなみ

映画「タリナイ」

製作・配給:春眠舎 | 宣伝:アーヤ藍 | 2018 | 日本 | カラー | 日本語 英語 マーシャル語 | 93分 | www.tarinae.com | Mitomo Studio

令和元年度 大和市平和都市推進事業 映画上映会

9月8日(日) 13時30分開演(13時開場)

会場 大和市保健福祉センターホール

- 第1部 ヒロシマ平和学習派遣事業報告会 一般 前売り500円(当日800円)
- 第2部 平和映画「タリナイ」(16時30分終了予定) 18歳以下 前売り100円(当日100円)

※保育無料(2歳~就学前幼児)先着8名(チケット購入後要申込)

前売り開始:8月1日(木)

問合せ・保育予約は、国際・男女共同参画課 ・046-260-5164

チケット取り扱い・イオンモール大和 ・イトーヨーカ堂大和鶴間店 ・イオン大和店(高座渋谷) ・大和市 国際・男女共同参画課

主催:大和市・大和市平和都市推進事業実行委員会

コイシイワアナタハ 迎えてくれたのは日本語の歌でした

1945年4月、
ひとりの日本兵が戦地マーシャル諸島で
命を落とした。

捕給が絶たれたことによる飢えであった。

2016年4月、
74歳になった息子は
マーシャル在住歴のある若者3人とともに
父が過ごした最期の地をめぐる旅に出た。



「このことを一度とだれも体験しないような
世界にきつくなってくれという
切実な思いが、映画を作った大川さんや
映された勉さんや、選歌や案内の人
などの背後に見えてくるという、
たいへん優れた映画ですよ。」

映画作家 大林宣彦

comments

佐藤さんの痛みを想像するとき、自分の限界を
いつも感じてしまう。カメラの眼差しが優しくかった。

映像作家(『記憶の中のシベリア』) 久保田桂子

対象への謙虚な距離感を持った映像はそれゆえ、幸福にも
戦争を知らない僕らに自ら考えることを促してくれる。

漫画家(『ベリリュウ - 楽園のゲルニカー-』) 武田一義

マーシャルの人たちの歌う歌に、私たちが添えていかなければならない。

国立歴史民俗博物館教授 三上喜孝

青い海、島の音楽、そこで書かれた最後の日記。
繰り返されるそのループに、私たちの今が、
いかに特別かということが何度も何度も思い起こされました。

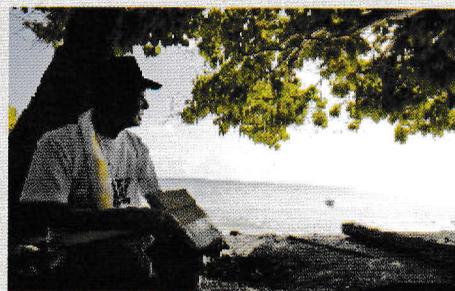
お笑い芸人・漫画家 矢部太郎

アジア・太平洋戦争中、日本の委任統治下にあった
マーシャル諸島では、約2万人の日本兵が命を落とした。
その一人、佐藤五郎さんは飢えで亡くなった。
亡くなる数時間前まで書き続けた日記は戦後、
戦友によって家族のもとに届けられた。
日本から遠く離れた太平洋の島での最後の日々が、
克明に綴られている。

2歳で父と別れ、74歳になった息子の勉さんは、
日記を手がかりに父の最期の地をめぐる旅に出る。
マーシャル諸島に住んだことがある若者たちが案内役となった。

道中目に飛び込んでくるのは、
旧日本軍が遺した雑物を使った家、
錆びついた砲台で遊ぶ子供たち、
地中に埋まった電線を掘り出して作った手工芸品、
日本語の恋の歌を歌う人びと…
マーシャルの暮らしのいたるところに、
戦争の記憶が顔を覗かせていた。

ひとりの日本兵の魂を追いかけてつづ、
不意にマーシャルの人々の「記憶」に触れ、驚てる。
これは、ただの慰霊の旅なのか?
美しい海と陽気なウクレレが心にざわめくドキュメンタリー。



大川史織監督 プロフィール

1988年神奈川県生まれ。2006年第9代高校生平和大使の旅で、アウシュビッツ博物館公式ガイド中谷剛さんのツアーに感銘を受ける。

2007年日本統治や被ばくの歴史のあるマーシャル諸島で聞いた日本語の歌に心奪われ、2011年慶応義塾大学法学部政治学科卒業後マーシャル諸島に移住。

日系企業で働きながら、マーシャルで暮らす人びとのオーラルヒストリーを映像で記録。マーシャル諸島で戦死(餓死)した父を持つ息子の慰霊の旅に同行したドキュメンタリー映画『タリナイ』(2018年)で初監督。

『マーシャル、父の戦場―ある日本兵の日記をめぐる歴史実践』(みずぎ書林) 編者。
山岡信貴監督の最新作『トゥレップ〜海獣の子供』を探して〜』(2019年6月15日公開)
マーシャルパート・ラインプロデューサー。

